

功 績 概 要

学 校 教 育 功 勞

○鵜山 義晃（うやま よしあき）

元三重県立いなべ総合学園高等学校教諭

昭和 58 年 4 月から永年にわたり、県立高等学校の理科教諭として指導力を発揮し、また、県の総合教育センター研修主事として、地学等の研修講座を通じて研究成果を県内教員に広め、本県の理科教育の質の向上に大きく貢献した。

平成 21 年度に赴任した桑名高等学校では、高大連携事業に企画立案段階から深く関わり、最新の自然科学に関する生徒の研究活動の指導に専門知識を遺憾なく発揮した。

インターネットを利用した情報発信を積極的に行い、Web サイト「空と雲のフォト日記」に、平成 18 年から現在に至るまで、毎日の雲の写真や気象画像をわかりやすい解説を添えて掲載し、高校での理科教育に留まらず、広く社会全体への自然科学分野の啓発活動を展開している。

平成 28 年に三重県で開催された「第 10 回国際地学オリンピック（日本大会）」のプレイベントである、「地球と三重の未来を考えるシンポジウム」（平成 27 年 10 月）において、県内の児童・生徒等を対象として、「空と雲の楽しみ方ー地学現象からふくらむ科学の興味・関心ー」と題した講演を行い、自然科学への理解を高めた。また、平成 28 年度には、気象学・気象技術に関する、優れた調査・研究を継続的に行っている者等を顕彰する「日本気象学会奨励賞」を受賞し、永年にわたる活動は、気象学の普及及び発展に大きく貢献している。

学 術 文 化 功 勞

○福井 健二（ふくい けんじ）

元伊賀市文化財保護審議会委員

平成元年から平成 23 年まで、上野市文化財専門委員、伊賀市文化財保護審議会委員として、伊賀市の文化財保護に尽力した。

昭和 49 年から三重県教育委員会が主催した中世城館の悉皆調査においては、伊賀地域の城館調査を進めるにあたり、中心的な役割を果たした。

『三重の中世城館』刊行後の昭和 52 年には、自らが主導して伊賀中世城

館調査会を組織し、新たな城館跡の発見に努め、その調査成果については、平成9年刊行の『伊賀の中世城館』に結実している。

その後、その活動に触発されて、中世城館研究は全国的に展開し、城郭史だけでなく、中世史や戦国史研究の進展に大きく寄与した。

伊賀文化産業協会専務理事として、永く伊賀文化産業城（伊賀上野城）の管理・運営に携わるとともに、自らの城郭、近世史研究の成果を基に講演、展示等の啓発活動に精力的に取り組んでおり、史跡上野城跡保存整備事業においては、知見を活かし事業の推進に的確な指導、助言を行った。

藤堂高虎及び藤堂家についての研究に取り組み、平成28年に刊行した『築城の名手 藤堂高虎』は高虎が築城した全国の城郭を網羅的に分析し、藤堂高虎の事績を通じて、近世初頭の城郭の変遷やその意義を全国的視点から説いた。

学校保健功勞

○竹尾 雅之（たけお まさゆき）

元学校医

昭和56年4月から平成26年まで33年間の永きにわたり、四日市市立神前小学校（昭和56年4月から平成24年3月までの31年間）と四日市市立三重平中学校（平成2年4月から平成26年3月までの24年間）、また、三重県立菰野高等学校（昭和56年4月から平成2年3月までの9年間）にて学校医を務め、児童・生徒の健康診断、健康相談等に尽力した。

学校医として、児童・生徒の心の問題や感染症の発生時には適切な指導と助言を行った。学校側からの児童生徒への健康指導等の相談にも真摯な態度で応じ、また、教職員や保護者と積極的に話し合いの場を設け、学校保健計画を見直し、健康教育について意見交換や情報交換を行うことで、学校全体で健康課題の共有が図れるよう尽力した。

学校保健の充実が、保護者をはじめとした地域住民すべての健康維持活動につながることを強く認識し、学校医としての職務はもとより、地域医療の担い手としての職責を全うした。

昭和57年4月から平成16年3月まで四日市医師会や三重県医師会の委員・理事を務める他、昭和57年3月から平成27年3月までの33年間の永きにわたり、四日市市応急診療所の診療所従事医師を務め、地域医療の充実に大きく貢献した。